

生駒市市民自治検討委員会設立準備会（第7回）議事要旨

日時：平成16年4月22日（木）10:00～11:30

場所：市役所403・404会議室

出席委員（敬称略）：相川、中川、野口、上埜、金谷、鶴田、森

1. 中間報告について

中川委員：中間報告について前回からの修正箇所を確認しておく。（修正箇所を順次確認）これでいかがでしょうか。

金谷委員：13ページの「(3)タウンミーティングの進め方」の「目的」の「市民が成長できる場」を他の表現にできないか。

相川委員：「市民が自己啓発・自己実現できる場」としてはどうか。

中川委員：「見出し」も削除して、「これからの市民自治を担う市民が自己啓発・自己実現できる場を提供する。」とした方がよい。

相川委員：内容とは関係ないが、2ページの「(3)委員の構成」で、野口先生と私は4月から心理福祉学部に移った。変わった方で公表した方がよいのか、最初のままでよいのか。

事務局：報告書提出は3月なので、このままでよいのでは。

中川委員：「順不同、敬称略」の後ろに、「平成16年3月現在」を入れておけばよい。

中川委員：5ページの「コミュニティ」の2つ目の最後の「(例：高山第2工区)」は浮いていないか。6ページの「政策形成のあり方」の6つ目に「市民の関心が高い高山第2工区については、情報公開を進めたうえで市民と行政の「協働」の試金石として取り組むべき。」と書いてあるので、「(例：高山第2工区)」はとってはどうか。

野口委員：7ページの「情報公開」の2つ目の「努めるべき。」ではなく「努めるべきである。」に修正した方がよい。

事務局：「べき」で終わっている文については、「べきである。」に統一するようもう一度全体を確認する。

中川委員：以上で、中間報告については承諾をいただき、(案)をとることとしたい。

2. 今後の進め方(シンポジウム開催に向けて)

中川委員：シンポジウム開催について、今後の進め方をどうするかということであるが、事務局の方から出されている資料について説明していただきたい。

事務局：(資料について説明)シンポジウムの具体的な要綱は、本日のご意見を踏まえて次回の準備会に出す予定。

中川委員：最終的には、平成18年3月に市民自治検討委員会の提言書を出していただく。これを基に市民自治基本条例ができてくる。逆算していくと、平成16年度の後半には、市民自治検討委員会が出来上がっていくという運びにもっていきたい。前半で研修会をやり、シンポジウムを開催し、市民自治検討委員会に参加してくださいという呼びかけをしていく。16年度前半のメインのシンポジウムが最初にあって、その広がりですべてのシンポジウムもやる。そのメインシンポジウムとサブシンポジウムのやり方は、基調報告、パネルディスカッション、参加者の検討会議の三段構えとなる。このあたりはこれでいいのか、どこか削るか、どれを強調するかということもある。主催と後援のあり方はこれでよいか。

金谷委員：「(4)後援」の「市内のNPOをネットワークする組織ができた段階で後援者に追加する。」というのは、市民の活動は多様であり、全部をひとくくりにするという考え方は間違っている。「このシンポジウムに参加したい」という意思を示したNPOが参加すればよい。

中川委員：「この指とまれ」というような形でいいのでは。市内のNPOで法人化されているのは？

金谷委員：今は9つある。その内5つの団体が一緒に協力しようという話になっている。

事務局：NPOという言葉だけを入れる方がよいのか、それともどういった名前でも入れたらよいのかまで決めていただきたい。

中川委員：「趣旨に賛同し、協力を得られるNPOを入れる」としては。

金谷委員：中には、シンポジウムの流れを好まないところもある。内部的に意見が調整できなくて見合わせるとかいろいろある。今、申請中の団体が3つある。そのへんをどうするか。とりえず法人格を取られたところだけにしようということか。

中川委員：考え方としては、団体をたくさん並べることが不審に思われる時代ではない。PTA連合協議会なども入ってもらえばよい。

相川委員：NPOだけでした方がよいのか、市民団体についてもっと広くした方がよいような気がする。

中川委員：別に法人格がなくても、NPOとして通用する。実態として社会的に認知されていれば充分NPOである。今回は、金谷委員に判断をお願いしたい。

事務局：「NPOネット」というようなくくり方をすればうまく当てはまるのではと考えている。難しいのは、どういう表現をするかである。

中川委員：「市内のNPOに幅広く後援を呼びかけ、協力を依頼する。」というふうにすればどうか。調整は金谷委員をお願いしたい。できるだけ連合体が出来上がることが望ましいが、NPO支援センターとかNPO支援ネットワークとかの中間NPOがまだできていない。社会福祉協議会のように法的、制度的なバックアップがある団体だけが正当な市民団体という考え方はやめた方がよい。そういうところに市民団体の枠をとめてきたから広がらない。周知については、行政をお願いすることになる。

事務局：周知については、ポスター、チラシ、インターネットそしてもちろん広報誌を活用する。

森委員：KCNで提供している番組も利用すべきである。それと、メインシンポジウムには必ず市長に出席してもらいたい。

野口委員：議会への対応も考えておかなければならない。市長の取り扱いによって対議会も関わってくる。

中川委員：この会議としては、議会にも出て来てほしい。どうするかは、行政の判断に委ねたいが、議会への働きかけはしてほしい。

事務局：準備会が主催する場に市長が行くという考え方は、議会と調整がいる。市民がリードしていく中で、そこに市長も議会もという形がうまくいくのではないか。

森委員：市長にこだわるのは、最初のメインセッションの場で市民から見て市長が何を考えているのか明らかにしないと、こういう検討会は無理があるのではないかと思うからである。

中川委員：実現の方法として出方も2通りある。パネルディスカッションの一員、または冒頭の挨拶をいただくという方法。

事務局：市長の考え方は、市民参加のあり方をこの会で考えてほしいということである。今は中間段階で、議会とはまだ調整していない。市長が前向きなのは間違いない。

中川委員：昨日、大阪府知事の「わいわいトーク」があった。知事が20分くらい話した後どんな質問が出てきたかということ、質問と言うよりは、個人的な自己主張が多かった。質問や意見はどんどん出てもいいが、文句や個人的な政治思想表明が出てくるのは困る。このようになるのが想定されるから、どのように議論するかをきちんと示すべきだ。パネルディスカッションとシンポジウムは違う。パネルディスカッションは、場内の壇上で対論をし、それを会場の人たちが拍手で判定する。観客と壇上はパネルで区切られている。シンポジウムは、壇上の人間が場内の意見を誘発していくものである。

森委員：私の希望は、市長も壇上に入ってもらってトークしてほしいということである。

中川委員：準備会として要望するという。ただし、出ないと困るというのではなく、行政側に状況判断してほしい。だが原則的に市長が出た方が市長にとってもいいし、皆にとってもいい。

相川委員：市長に来てもらうのであれば、議長にも来てもらって挨拶してもらうのがよいと思う。しかし、議長は他の議員との関係があるため自分の意見はほとんど言えない。それこそセレモニーになってしまう。市長にきてもらっても挨拶ぐらいかなと思う。

中川委員：それははっきり言って政治判断の問題である。要望としてお願いしたい。

野口委員：準備会としては、市長の参加を要請するということである。判断は事務局に委ねる。判断基準としては、より充実した市民条例制定に結実するかどうかということである。

相川委員：市長が来てあまり政策的なことを言われたら、こちらで何をするのか制約されるし、この委員会が必要ないということになる。

金谷委員：市長が会場で市民と一緒に最後まで話を聞くということが大事なのではと思う。

野口委員：委員会も含めて、制約を受けることは望ましいことではない。

中川委員：必ず出席していただくということを確認しておけばよい。

野口委員：大きな目的のひとつとして、市民への啓発がある。そういう意味でまずは出発点であると思う。

中川委員：まずは中間報告のお披露目である。これを受けて「私たちはこう思う」ということを市民の方から言ってほしい。

上埜委員：市民自治については、まだ十分に理解されていない。

中川委員：そこで先進自治体からの事例報告の意味が出てくる。抽象的な議論をするよりも、事例をどんどん出していけばよい。

相川委員：中間報告については、インターネットでの公表もよいが、正式なルートで議会に出すべきである。それをしておけば、市長に来てもらっても必ずしも議会には来てもらわなくてよい。

中川委員：議事録の中で、議会の役割が重要であることについての発言もあった。議会に対してはペーパーができないと話できない。これが議会への話をするはじまりである。ニセコ町では、自治基本条例を作るとき議会をはずしており、理念条例となっている。生野町は「議会の責務」を入れたのが画期的であった。今では当たり前のことになっている。

事務局：今の意見を取りまとめて、次回に詳細な要綱を提案したい。

鶴田委員：後援について、協議会等への呼びかけは誰がするのか？

中川委員：行政がしてくれる。

金谷委員：当日の会場の設定や準備はどこがするのか？

事務局：次回の詳細計画で出していきたい。

中川委員：シンポジウムとパネルディスカッションは違うことに留意が必要である。この準備会の市民委員さんの役割、出番も考えてほしい。先進事例もどこを呼ぶかということ。地域性を考えてはめこんでいけばよい。

金谷委員：このシンポジウムで「協働」の形ができればよい。行政がすべて準備してしまうのは良くない。これが大事なところである。

中川委員：次回までに全員がシンポジウムの企画案を考えて、提案書を出すことにしたい。行政と市民の協働で行うことを基本とする。

3. その他

各委員の日程調整の結果、次回会議は5月20日（木）午前中に決定。

以上